

令和8年度 学校自己評価表

学校教育目標	向学の気風あふれる活気に満ちた学校づくりを通して、学力・情操・身体の調和ある発達を図り、将来の地域社会を担い、国際社会の平和と発展に寄与できる人間を育成する。
--------	---

中・長期目標	<p>I. 生徒の実態に即した授業を実施し、主体的な取り組みを促すことで自ら課題を解決する力を養い、生徒一人ひとりの自己実現を目標とした進路指導を行う。</p> <p>II. 探究的な学びや国際交流等の活動を通して、幅広く教養を深めるとともに、思考力、判断力、表現力、コミュニケーション能力を養い、地域や国際社会のリーダーとして活躍できる人間を育成する。</p> <p>III. 学友会活動・班活動・清掃活動等を通して、自主的に考え、他者と協力して行動できる生徒を育成する。</p> <p>IV. 人権意識を涵養し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりを推進する。</p> <p>V. 交通安全・交通マナーに対する意識を高め、自転車の安全利用の徹底を図る。</p>
--------	---

<p>今年度の重点目標</p> <p>(中・長期目標に即し、今年度特に重点的に取り組む目標)</p>	<p>1. 「主体的・対話的で深い学びの実現」を目指して授業を実践する。さらに新たな指導方法を検討する。また、ICTを有効に活用した授業展開ならびにオンラインによる授業配信をはじめとする、生徒の学習支援を効果的に行う。「探究的な学び」を日常の授業の中に位置づけつつ、全校で探究活動の充実を図っていく。→ I、II</p> <p>2. 生徒の健康状態に留意し、学習と班活動等さまざまな活動の調和がとれた日常生活が送れるよう支援する。整理整頓、清掃の徹底による校内環境整備に努めると共に、交通安全・交通マナーに対する意識を高め、自転車の安全利用を徹底し、交通事故を防止する。また、人権意識を涵養し、いじめや体罰のない安心安全な学校づくりの推進に努める。→ III、IV、V</p> <p>3. 国際教養科を中心に、国際交流活動を活発に実施し、他校や他団体と連携して地域貢献および国際貢献につながる活動を行う。国際教養科の特色を活かしながら、全校生徒が、積極的に国際交流に参加できるような環境づくりに努める。→ II</p>
--	---

個別評価項目

<教育活動>

		評価項目	評価の観点
教育計画	I	学習目標の明確化、計画性(教)(生)	・ 生徒がシラバス及び日常の授業を通して、目標を持って計画的に学習するように支援できたか。
	評価		
	I	コース選択、科目選択における支援(教)(生)	・ コースや科目の特徴が理解できるような支援をおこない、生徒の適正や進路実現に沿う選択をすることができたか。
	評価		

	Ⅱ	国際交流活動への参加意欲、世界の多様な文化に対する生徒の興味・関心を高め、豊かな国際感覚及び国際社会に貢献できる力の育成 (教)(生)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 国際交流活動に参加しようとする意欲、世界の多様な文化に対する興味・関心を高めることができたか。 ◎ 国際交流活動を通して、国際社会に対する自身の意見や考えを持ち、それを表現することができたか。 ◎ 地域貢献、国際貢献につながる活動を行うことができたか。
	評価		
教科・学習指導	Ⅰ	授業方法や授業形態の研究および工夫 (教)(生)	◎ 生徒の実態や学習環境に即した授業内容を工夫し、基礎基本を定着させるとともに応用力をつけさせる指導ができたか。探究的な学びの授業展開ができたか。電子黒板や ICT の適切な活用ができたか。
	評価		
	Ⅰ	自己管理能力および探究心の育成 (教)	・ 自律的な学習習慣および生徒自らが意欲的に学ぶための支援をすることができたか。
	評価		
	Ⅰ	授業以外での支援 (教)(生)	・ 生徒の学習状況に応じた補習や教材・授業の配信を研究・計画し、生徒にとって意義のある補習や家庭学習の支援ができたか。
	評価		
進路指導	Ⅰ	学年や教科間の連携および3年間の連続性 (教)	・ 学年間および教科・全職員の情報交換を密にし、その上で3年間の進路指導の継続性をはかることができたか。
	評価		
	Ⅰ	面談や通信を介しての支援 (教)(生)	・ 集団および生徒個々の実態を把握し、希望実現に向けて定期的な情報提供やアドバイスができたか。
	評価		
	Ⅰ	外部講師や卒業生による講演・ワークショップの充実 (教)(生)	・ 生徒がより具体的に自らの進路を考え、行動するきっかけとなるよう、講師の人選と実施のタイミングを考慮できたか。
	評価		
	Ⅰ	キャリア教育と進路実現 (教)	・ 大学見学や職業体験及び、学問・職業研究を通じて、自己理解や社会貢献まで見据えた将来の展望を持ち、その実現に向け進んで学習に取り組むための指導ができたか。目標設定と振り返りのサイクルを構築し、進路実現に向けた支援ができたか。

	評価		
学友会	Ⅲ	学友会・班活動等、生徒の自主活動への支援とその活性化（教）（生）	◎ 学友会活動・班活動を通して、自ら考え他者と協働して主体的に行動できるよう職員間で連携して支援できたか。
	評価		
生徒支援	I	生徒の生活習慣の確立（教）（生）	・ 生徒の基本的な生活習慣の確立につながるような支援を職員が行い、個々の生徒が高校生として基本的な生活習慣を身につけることができたか。
	評価		
	I Ⅳ	生徒理解を基盤とした生徒指導と相談体制の整備・充実（教）（生）	・ 一人一人の生徒の実態について、職員が理解し、適切な支援を行えたか。 ・ いじめの兆候を見逃さないなど、生徒の実態把握に努めることができたか。
	評価		
	V	交通安全マナーの育成	◎ 交通安全教室を実施するとともに、機会あるごとに交通安全の呼びかけ等を行い、特に自転車のマナーを向上させ、事故防止を図れたか。
	評価		

<学校運営>

地域・保護者との連携	I Ⅲ	学校 Web サイトによる情報発信（教）（生）（保）（地）	◎ 授業活動や PTA 活動および学友会や班活動の情報や成果を学校 Web サイトで紹介し、学校の様子を伝えることができたか。
	評価		
	Ⅲ	公開授業および体験入学の実施（教）（生）（保）（地）	◎ 公開授業、体験入学などを通して、保護者や地域住民・中学生などに、本校に対する関心を高めてもらうことができたか。
	評価		
	I	保護者への進路情報の提供（教）（生）（保）	・ 保護者が家庭で生徒の進路を考えることにつながるような情報提供ができたか。情報発信の方法について改善をすすめることができたか。
評価			

研修	Ⅰ	校内研修の推進（教）	◎ 授業方法や ICT の活用等に関する研修会を実施し、授業改善並びに生徒の学習支援に役立てることができたか。
	評価		
施設・設備	Ⅲ	校内美化の徹底（教）（生）（保）（地）	・ 生徒の清掃活動を適切に指導し、環境保全の意識を高めることができたか。
	評価		

*評価者凡例<評価方法>…(教)教員<教員用個票>、(生)生徒<教員がアンケートなどで集約>、(保)保護者<保護者向けアンケート>、(地)地域<PTA 諸会合、本校へのメール、学校評議員会など>

*評価項目のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴは、中長期目標のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴに対応している。◎は本年度の重点目標